

平成 30 年度 第 3 回中間貯蔵事業技術検討会 議事要旨

1. 日 時：平成 31 年 3 月 14 日（木） 15:00～17:10
2. 場 所：JESCO 本社 5 階 A 会議室
3. 出席委員：森田委員長、大迫委員、勝見委員、国包委員、吉岡委員
(オブザーバー) 環境省
4. 議 題：
 - (1) 平成 30 年度調査研究の結果概要について
 - (2) JESCO における平成 31 年度技術調査の検討について
 - (3) その他

5. 要 旨

平成 30 年度調査研究の結果概要について、受入・分別施設、土壌貯蔵施設に関する技術的調査・検討状況、減容化・再生利用等に関する技術的調査・検討状況、土壌貯蔵施設等の整備・管理等に関する検討委員会の開催状況、JESCO における平成 31 年度技術調査の検討などの説明のあと、議論が行われた。

主なコメント等は以下の通り。

- ・ 土壌貯蔵施設における散布材の長期にわたる使用により環境への影響が出ないか、気を配っておいた方が良い。
- ・ 土壌貯蔵施設の浸出水の原水水質の分析・評価について、これまでのデータでは水質に問題はない。データが蓄積されることにより多くのことが分かると思うので今後も水質の分析をすべきである。
- ・ 浸出水処理施設において凝集剤として使用される高分子系ポリマーは全国的に幅広く使用されているものであるが、環境に対する影響が懸念されることから、他の凝集剤への変更等についても将来的な検討課題としてはどうか。
- ・ 技術実証フィールドでは、採択された事業者が使いやすい作業スペースを用意してはどうか。また、不慣れな場所での研究となるため管理者側で調整等の補助が必要となると考えられる。
- ・ 除去土壌の分級処理システム実証事業について、パイロットスケールで妥当と思われる成果が得られた。今後の判断材料に使えると考えられる。また、改質材の影響が今後の課題とあるが、成果の精度を高める検討を続けてほしい。 など

以上